

店舗一覧

明石市中央部	本店	明石市本町2-3-20	078(912)4567
	駅前支店	明石市桜町11-14	078(911)8181
	丸支店	明石市大蔵天神町4-7	078(912)0337
	林崎支店	明石市林崎町1-4-20	078(922)7431
明石市西部	西明石支店	明石市西明石南町2-14-7	078(923)1101
	市場支店	明石市藤江2029-1	078(921)3020
	大久保支店	明石市大久保町駅前2-1-7	078(936)2165
	江井ヶ島支店	明石市大久保町江井島835-1	078(946)0623
	魚住支店	明石市魚住町錦が丘1-12-1	078(947)6799
二見支店	明石市二見町東二見887-1	078(942)1221	
加古川市・高砂市・播磨町	加古川支店	加古川市加古川町寺家町311-3	079(422)6066
	宝殿支店	高砂市神爪1-10-2	079(432)8711
	本荘支店	加古郡播磨町南野添1-2-1	079(435)3270
三木市・小野市・加東市	三木支店	三木市大村63-9	0794(82)5211
	緑が丘支店	三木市緑が丘町東2-9-1	0794(84)1231
	小野支店	小野市上本町237-2	0794(63)1135
	天神支店	加東市天神492	0795(47)1011
	天滝支店	加東市上滝野2413	0795(48)2010
神戸市東部	本山支店	神戸市東灘区田中町3-3-3	078(431)1061
	魚崎支店	神戸市東灘区魚崎南町7-7-7	078(411)3281
	六甲支店	神戸市灘区桜口町3-1-1-107	078(841)0141
	西灘支店	神戸市灘区岸地通4-4-15	078(802)1431
神戸市中央部	神戸支店	神戸市中央区小野柄通5-1-16	078(231)2731
	栄支店	神戸市中央区下山手通3-1-13	078(391)0222
	宇治川支店	神戸市中央区北長狭通7-3-5	078(341)4502
	兵庫支店	神戸市兵庫区浜崎通3-22	078(671)3443
	平野支店	神戸市兵庫区上祇園町4-4	078(361)0411
	板宿支店	神戸市須磨区前池町3-4-1	078(735)6001
神戸市北部	鈴蘭台支店	神戸市北区鈴蘭台北町1-9-1	078(591)1221
	ひよどり台支店	神戸市北区ひよどり台2-1-2	078(743)1621
	藤原台支店	神戸市北区有野中町1-9-14	078(982)2489
神戸市西部	垂水支店	神戸市垂水区神田町3-10	078(706)2222
	舞子支店	神戸市垂水区西舞子2-14-21	078(784)8177
	伊川谷支店	神戸市西区池上2-21-8	078(975)0571
	玉津支店	神戸市西区王塚台7-96-1	078(928)6110
西宮市	西宮今津支店	西宮市今津出在家町1-6	0798(31)2489

〈にっしん〉

最新の決算 ミニガイド

◇2022年5月◇

We will make a fresh step everyday.



彫画:伊藤 太一



日新信用金庫

LINE公式アカウント

@nisshin-shinkin



フリーダイヤル イコー ニッシンバンク
0120-15-2489
(受付時間)平日午前9時から午後5時まで
<https://www.nisshin-shinkin.co.jp/>

日新信用金庫
The Nisshin shinkin bank

ごあいさつ

平素は日新信用金庫に対し格別のご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

2021年度の日本経済は、昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全ての都道府県で緊急事態宣言等が解除された2021年9月末までは、行動制限や外出自粛により、社会経済活動が抑制され個人消費は一進一退で推移しました。

また、半導体不足や東南アジアでの部品供給不足などが生産活動や輸出の足かせとなっていますが、2021年10月以降は経済活動の水準が段階的に引き上げられる中で、徐々に景況感は持ち直しています。一方、変異株を含む感染症の再拡大、原油等の資源価格や農産物等の原材料価格の高騰、約20年ぶりの円安水準、ウクライナ戦争の影響などが、今後の景況見通しの不安定要素となっています。

更に、米欧はじめ海外の主な中央銀行では、インフレ抑制に向けた金利引き上げや金融引締めめに転じていることから、金利動向も先行き不透明な状況です。

地域の担い手である中小企業や小規模事業者は、少子高齢化や後継者難、慢性的な人材不足といった構造的な課題を抱える中、コロナ禍における行動変化の対応やデジタル化の推進、脱炭素化に向けた対応などが喫緊の課題になっています。

そうした中、2022年3月末において〈にっしん〉は、預金残高8,193億円、貸出金残高3,934億円となり、当期純利益はお陰さまをもちまして1,789百万円を計上することができました。心より御礼申し上げます。また、経営の健全性を示す自己資本比率は10.56%と十分な水準にあります。

決算の概況については、次ページ以降に分かりやすくグラフを用いてまとめておりますので、ご一読いただければ幸甚でございます。

〈にっしん〉はこれからも、お客さまとのリレーションシップを追求し、地域に根ざした金融機関として、地域住民や中小企業が抱える課題の解決に全力を尽くし、地域社会の成長に貢献できるよう一生懸命に取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2022年5月

イベント・セミナーの開催（地域経済のお手伝い）

●『にっしん経営塾』



兵庫県立大学大学院の教授を講師に招き、「にっしん経営塾」を全6回にわたって開催しました。（本店 2021年10月～2022年3月）

●『にっしん個別商談会』



個別商談会を開催し、お客さまの販路拡大のお手伝いをしました。（本店 2021年10月）

●『事業承継・M&Aセミナー』



経験豊富なコーディネーターを講師にむかえ、セミナーを開催しました。（本店 2022年1月）

〈『事業承継・M&Aセミナー』のほか、中小企業の支援機関等と連携して、お客さまの経営に役立つ各種セミナーや個別相談会を開催しました。〈にっしん〉は、これからも地域のお客さまの経営のお役に立つイベント・セミナーを開催してまいります。〉

地域行事への参画（お客さまとのふれあい）

●加東市手話言語強化週間



天神支店（2021年11月）

●生活科学習「町たんけん」



ひよどり台支店（2021年12月）

加東市で営業する天神支店と滝野支店は、2021年度も「加東市手話言語強化週間」に参加しました。また、ひよどり台支店は地元小学生の生活科学習「町たんけん」に参加しました。〈にっしん〉は、これからも地域行事に参加し、地域の皆さまとのふれあいを大切にまいります。

にっしん名店・銘品セレクション2021（Vol.2の発刊）

2020年に創刊し、ご好評をいただいた「にっしん名店・銘品セレクション」の2021年版を36の事業者さまのご協力を得て、Vol.2として発刊いたしました。

〈にっしん〉は、これからも地域の魅力を発信してまいります。



地域おうえん定期預金の発売（子育て支援事業への貢献）



写真は明石市での贈呈式の様子です。

明石市及び神戸市の子育て支援事業を応援するため、2021年度も募集総額の0.01%相当額を寄付する「地域おうえん定期預金」を発売しました。お客さまの温かいご支援、ご協力により、多くのご契約をいただき、2021年11月に神戸市へ40万円、2022年1月に明石市へ30万円を寄付しました。



地域おうえん定期預金

特殊詐欺被害の未然防止（安心・安全なお取引）



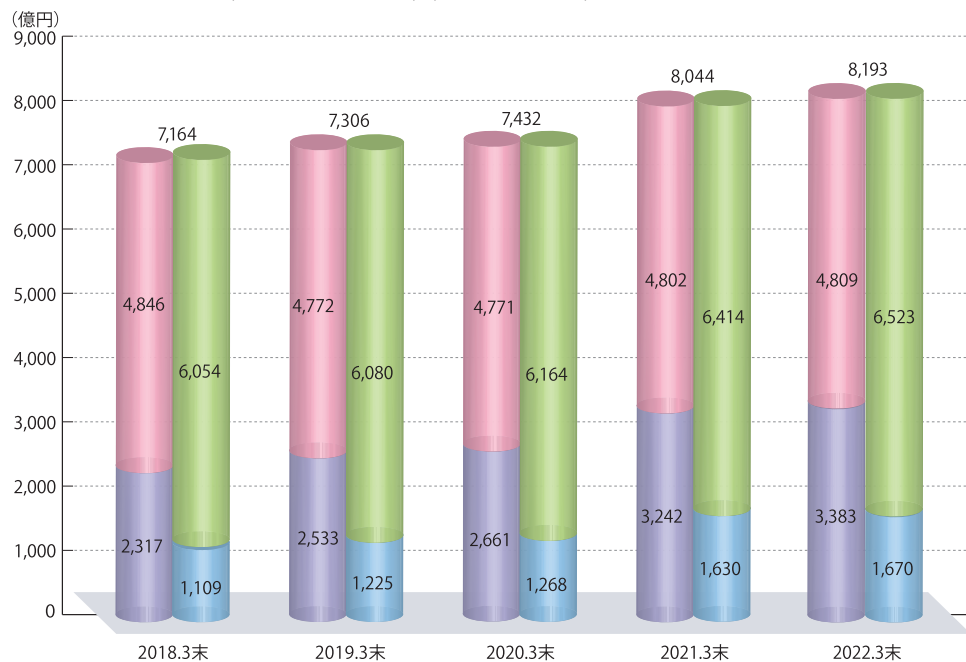
平野支店（2021年10月）



大久保支店（2021年11月）

窓口で還付金詐欺を未然に防止したことにより平野支店が兵庫警察署から、また、名義貸し詐欺を未然に防止したことにより大久保支店が明石警察署からそれぞれ感謝状をいただきました。これからも、お客さまのご預金をお守りするため、窓口での対応に努めてまいります。

〈預金〉 預金 (定期性 流動性) (個人 法人)



【預金】

預金は、2021年3月末に比べて149億円増加し8,193億円となりました。期末預金残高は過去最高となりました。

定期性預金は微増となり、流動性預金は大幅に増加となりました。これは、新たなお客さまが増えたことに加え、新型コロナウイルス感染拡大に伴う持続化給付金・特別定額給付金の入金や消費控等により個人のお客さまの普通預金が増えたことが主な要因です。

今後もお客さまの様々なご要望やご意見にできる限りお応えし、皆さまに喜ばれるサービスを目指してまいります。

【貸出金】

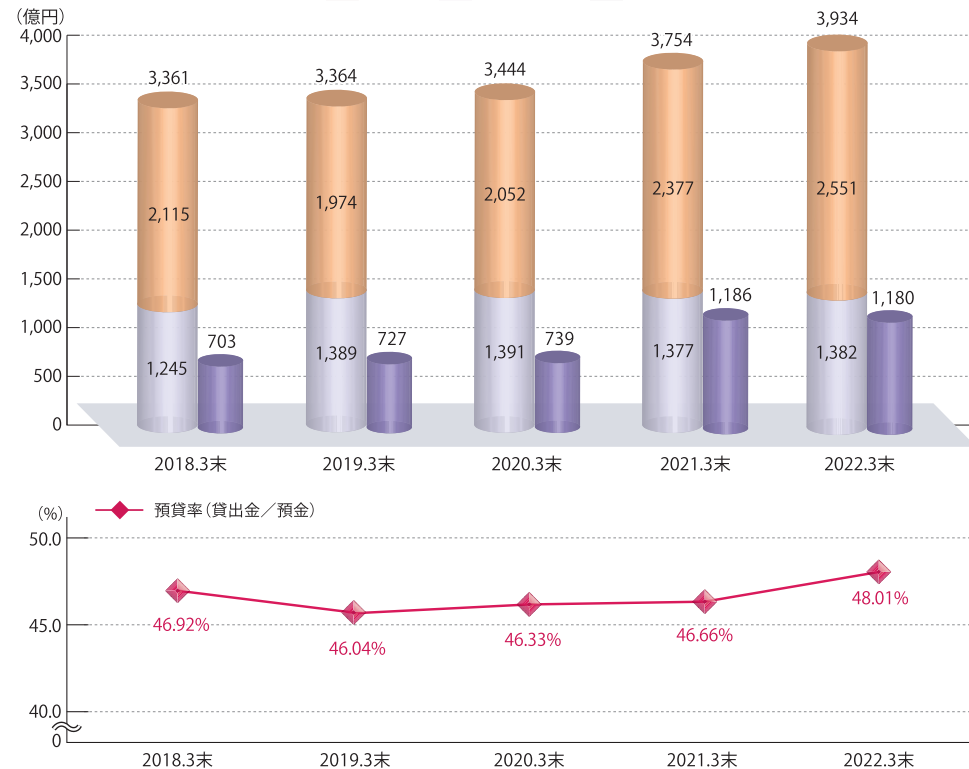
貸出金は、2021年3月末に比べて179億円増加し3,934億円となりました。これは、新型コロナウイルスの影響を受けられたお客さまの資金繰り支援に積極的に取り組んだことや金融機関向け貸出金を取組んだことが主な要因です。また、預貸率は1.35ポイント増加しました。これは貸出金の増加率が預金の増加率を上回ったためです。

今後も地域の皆さまがかかえておられる課題の解決に全力で取り組み、適切で円滑な資金提供に努めてまいります。

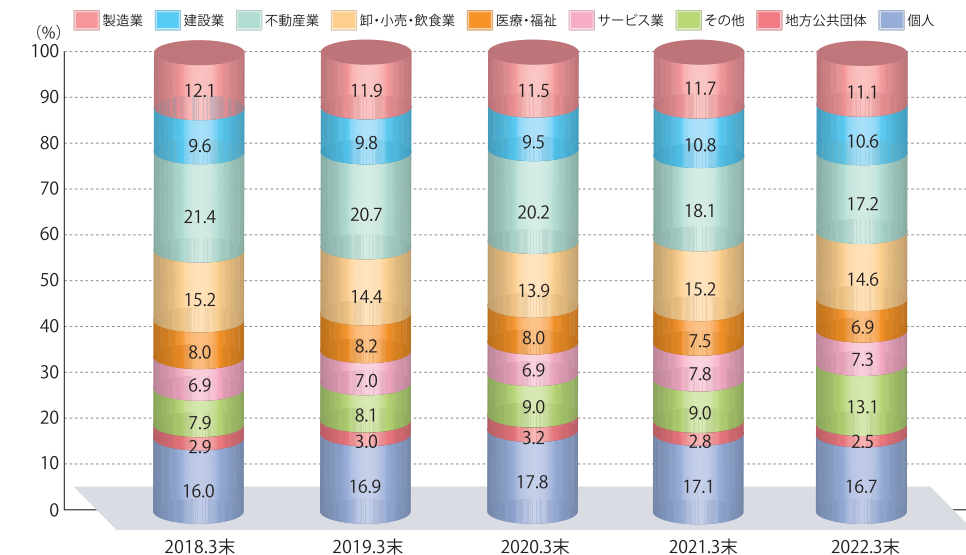
【業種別構成比】

貸出金の業種別構成比の推移をみると、2021年3月末に比べて、その他(金融機関等)で4.1ポイント増加しました。一方、不動産業で0.9ポイント、製造業、卸・小売・飲食業、医療・福祉で0.6ポイント、サービス業で0.5ポイント、個人で0.4ポイント、地方公共団体で0.3ポイント、建設業で0.2ポイント構成比は減少していますが、建設業、卸・小売・飲食業、個人の貸出金残高は増加しています。

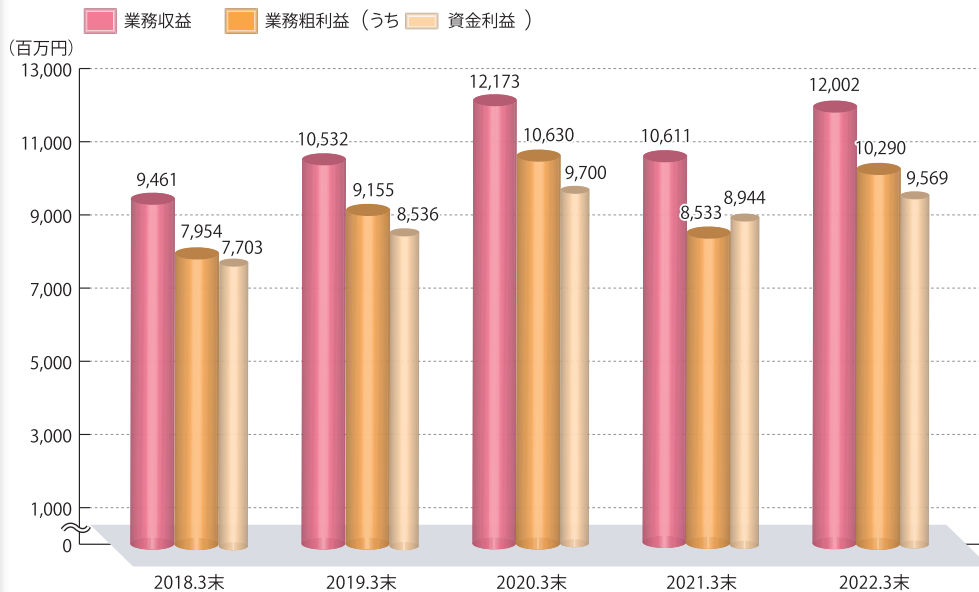
〈貸出金と預貸率〉 貸出金 (運転資金 設備資金) うち 保証協会保証付貸出



〈貸出金の業種別構成比の推移〉



〈業務収益、業務粗利益(うち資金利益)〉

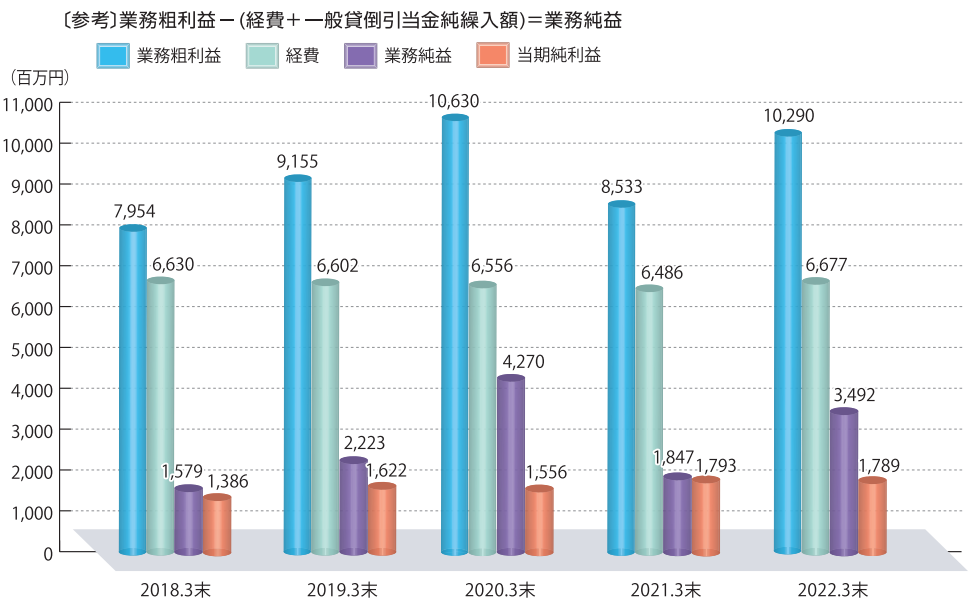


業務収益(貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役務取引収入等)は、一般企業の売上に当たります。貸出金利息収入や有価証券利息収入などの資金運用収益が581百万円増加し、債券売却益などのその他業務収益が810百万円増加したことから、2021年3月末に比べて業務収益は1,390百万円の増収になりました。

業務粗利益(業務収益-預金利息等の原価)は、業務収益の増収に加えて、預金利息が43百万円減少したことや債券売却損及び償還損が280百万円減少したことから、2021年3月末に比べて1,756百万円の増益となりました。

金庫の中核的業務から得られる資金利益(貸出金と有価証券の運用から発生する利益-預金支払利息)は、貸出金や有価証券などの運用残高が増加したことから、2021年3月末に比べて624百万円の増益となりました。

〈業務粗利益、経費、業務純益(業務粗利益-経費等)、当期純利益〉

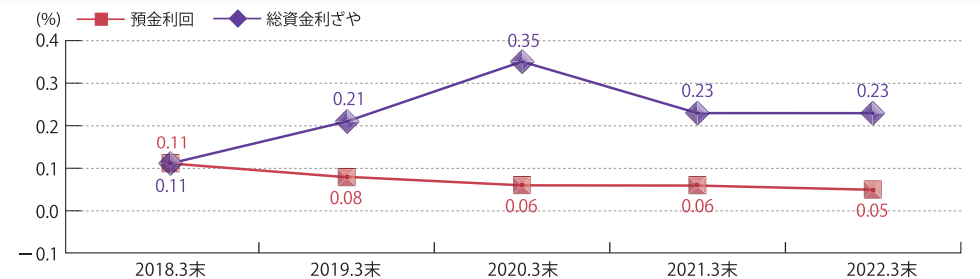
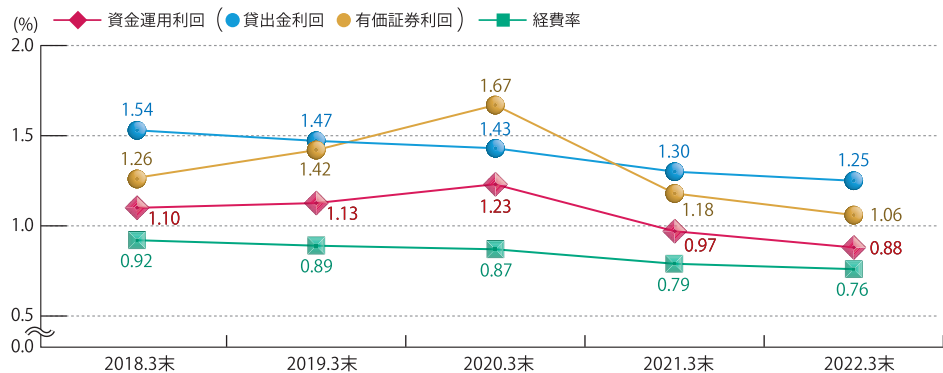


経費は、人員の増加や補完システム及び営業店ネットワークの更新などにより2021年3月末に比べて190百万円の増加となりました。

業務純益は、経費が増加したものの、業務粗利益の増益や一般貸倒引当金繰入額の減少により、2021年3月末に比べて1,644百万円の増益となりました。

当期純利益は、個別貸倒引当金繰入額の増加により2021年3月末に比べて3百万円減益の1,789百万円となりました。

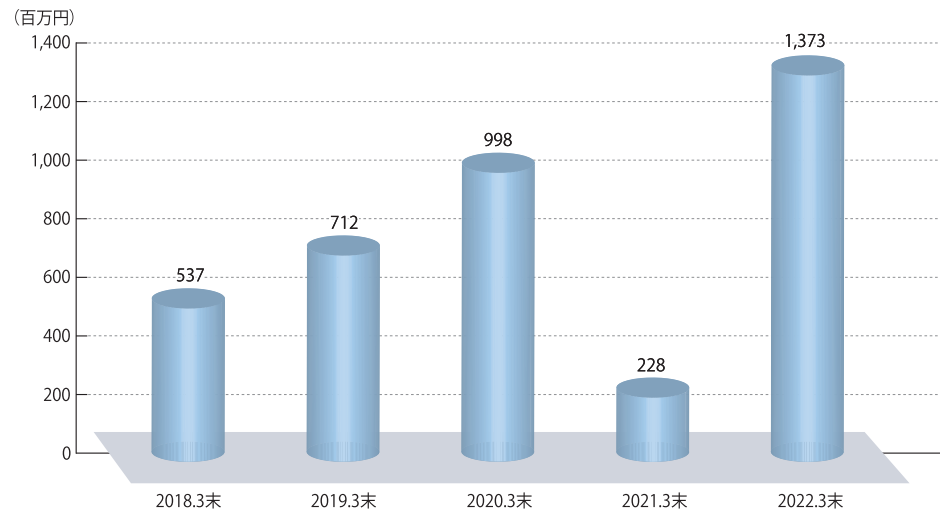
〈資金運用利回(貸出金利回+有価証券利回)、預金利回、経費率、利ざや〉



資金運用利回は、有価証券利回が低下し、新型コロナウイルス関連融資など低金利融資の増加により貸出金利回も低下したことから0.88%になりました。

総資金利ざやは、資金運用利回が低下したものの預金利回が低下したことや経費率が改善したことから2021年3月末と同じ0.23%になりました。これからも収益力の強化に努めてまいります。

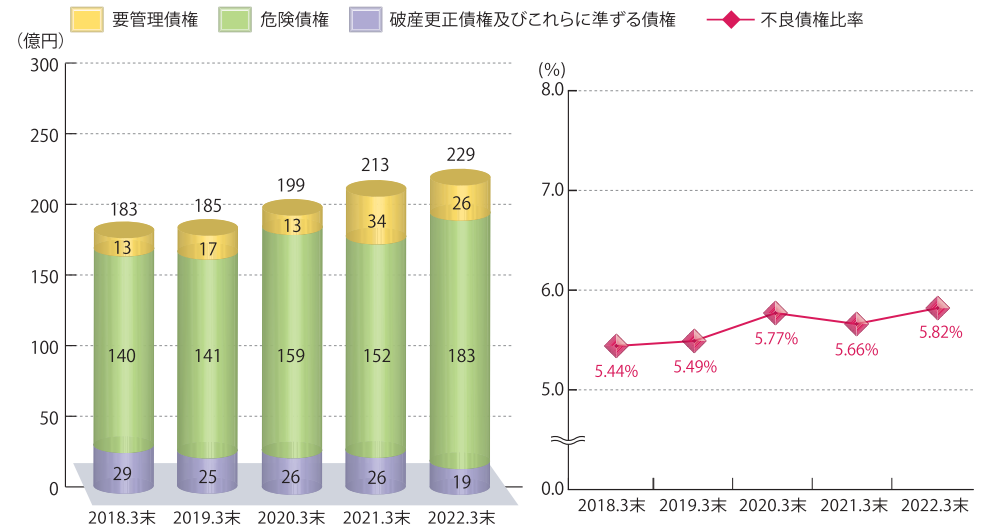
〈貸出金にかかる不良債権処理費用等*〉 *貸出金にかかる不良債権処理費用等は、一般貸倒引当金純繰入額、個別貸倒引当金純繰入額、債権償却額等の合計額です。



2022年3月末の不良債権処理費用等は、2021年3月末に比べて大きく増加し、1,373百万円となりました。これは、新型コロナウイルス等によって、景況悪化を受けた業種を中心に個別貸倒引当金を予防的に計上したことにより、不良債権処理費用が増加したものです。

今後も貸出債権の不良化防止に向けて、お客さまの課題についてきめ細かな支援を全力で取組むと同時に、将来のためにも十分な引当を行ってまいります。

〈不良債権(金融再生法上の開示債権)の内訳と不良債権比率〉



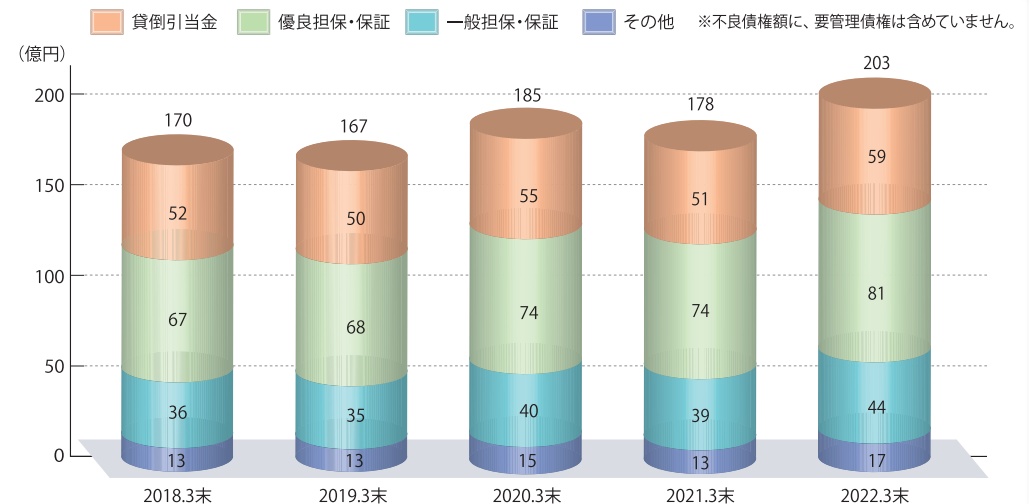
不良債権は、要管理債権、危険債権、及び破産更生等債権に分類されます。

2022年3月末の不良債権残高は229億円となり、2021年3月末に比べて新型コロナウイルスの影響等により景況が悪化したこと等から、16億円の増加となりました。不良債権比率は5.82%となり、2021年3月末に比べて0.15ポイントの上昇となりました。

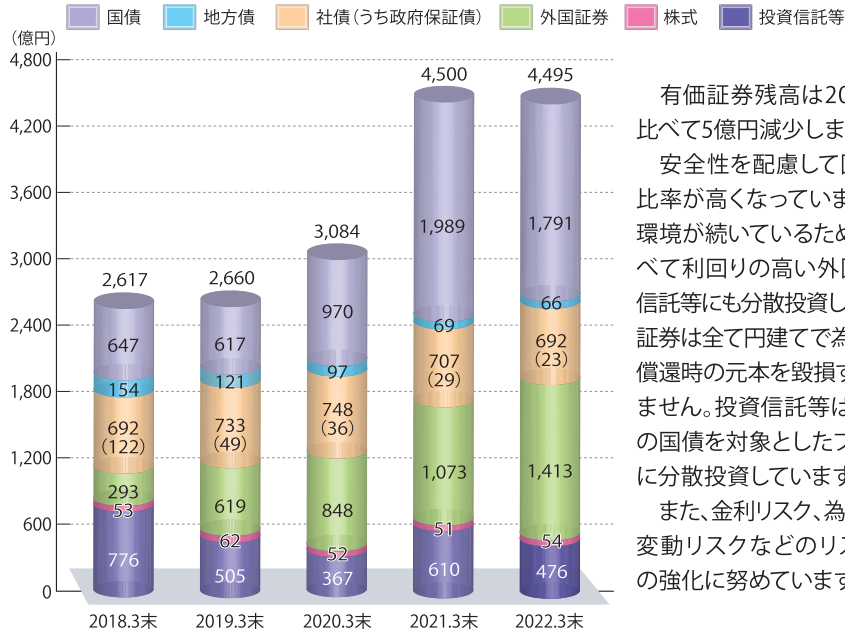
事業性評価や外部支援等を活用して、お客さまの経営改善に一体となって取組み、不良債権の減少に努めてまいります。

〈不良債権(要管理債権を除く)の保全状況〉

2022年3月末現在の不良債権(要管理債権を除く)は203億円ありますが、その保全状況は右の通りです。貸倒引当金は59億円を積んでいます。会計上59億円は損失処理済といえます。優良担保・保証(保証協会保証等)で保全されている額が81億円、一般担保(土地・建物等)・保証で保全されている額が44億円、合わせて126億円は回収が確実であると見込んでいる額です。残りの17億円は、これまでの回収実績等から見て回収可能と見込まれる額です。

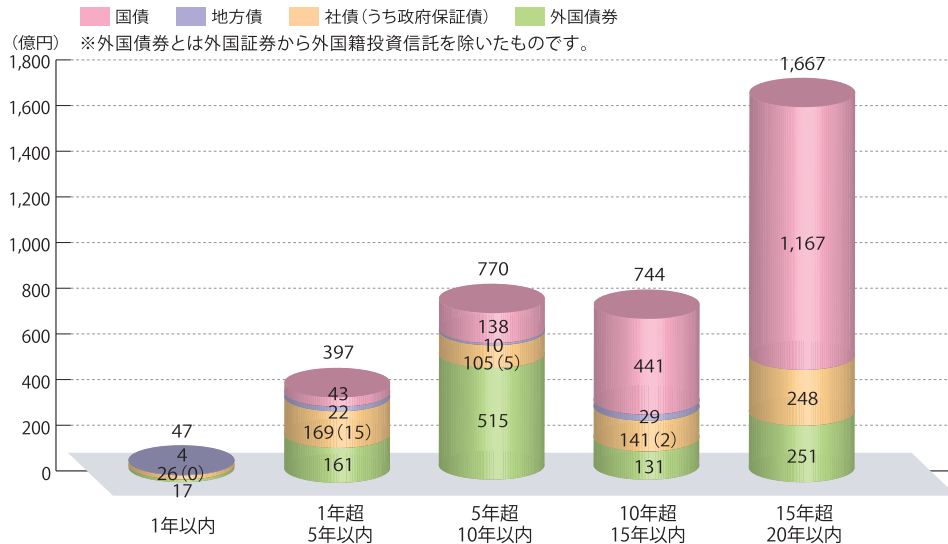


〈有価証券の種類別保有状況〉



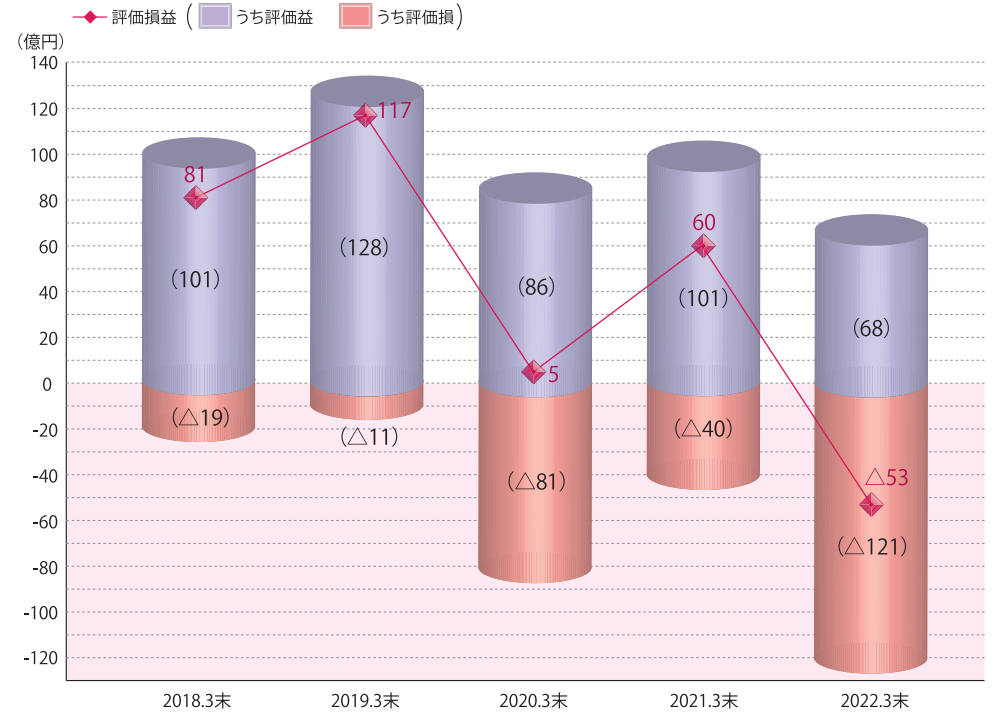
有価証券残高は2021年3月末に比べて5億円減少しました。
 安全性を配慮して国債への投資比率が高くなっていますが、低金利環境が続いているため、国内債に比べて利回りの高い外国証券や投資信託等にも分散投資しています。外国証券は全て円建てで為替変動により償還時の元本を毀損するものではありません。投資信託等は、主要先進国の国債を対象としたファンドを中心に分散投資しています。
 また、金利リスク、為替リスク、価格変動リスクなどのリスク管理態勢の強化に努めています。

〈債券(償還までの期間別に見た残高)(2022年3月31日現在)〉

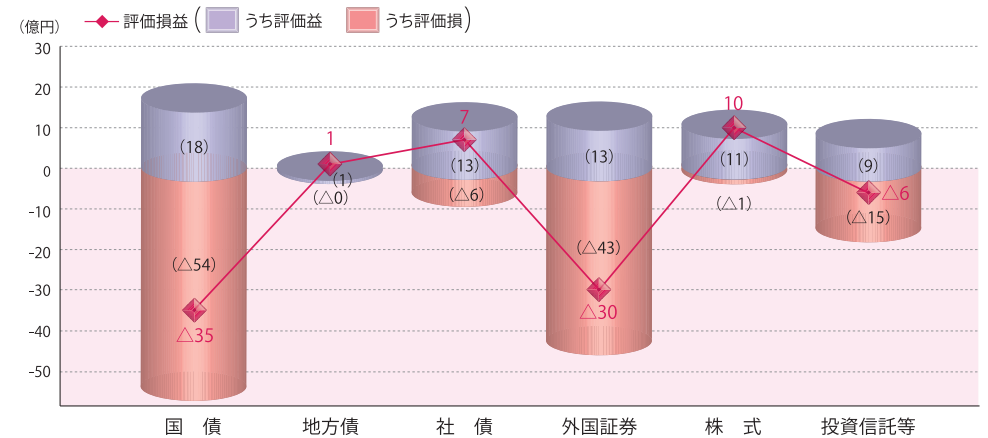


有価証券のうち株式及び投資信託等を除いた債券について、その償還までの期間別に見た保有残高を示したグラフです。期間10年以内の国債の利回りは低利であるため、期間10年超20年以上の国債、地方債、社債、外国証券にも投資していません。なお、期間20年超の債券への投資は行っていません。

〈有価証券の評価損益の推移〉



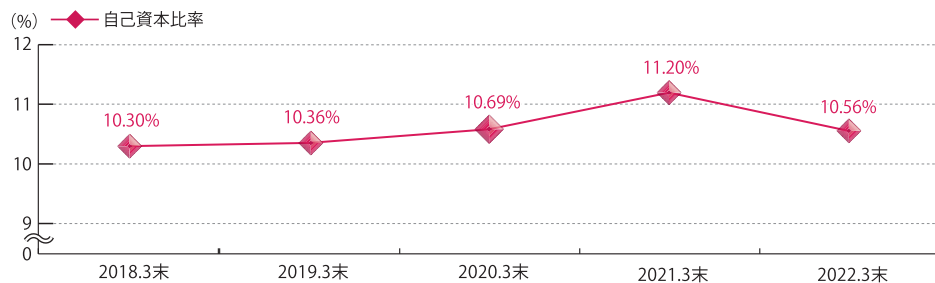
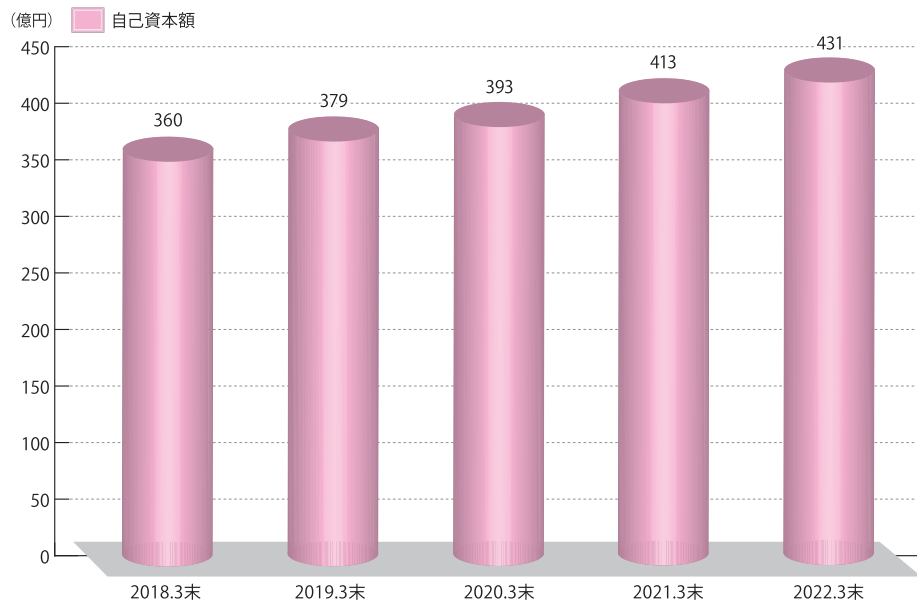
〈有価証券の種類別の評価損益(2022年3月31日現在)〉



2022年3月末の有価証券の評価益は68億円、評価損は121億円、有価証券全体で差引53億円の評価損となっています。これは、欧米の金利上昇やそれに連れた国内金利の上昇により債券価格が下落したためです。

国債、外国証券、投資信託等で評価損益がマイナスとなっています。金利の動向を踏まえた評価損益シミュレーションにより管理強化に努めています。

〈自己資本と自己資本比率(信用金庫単体)〉



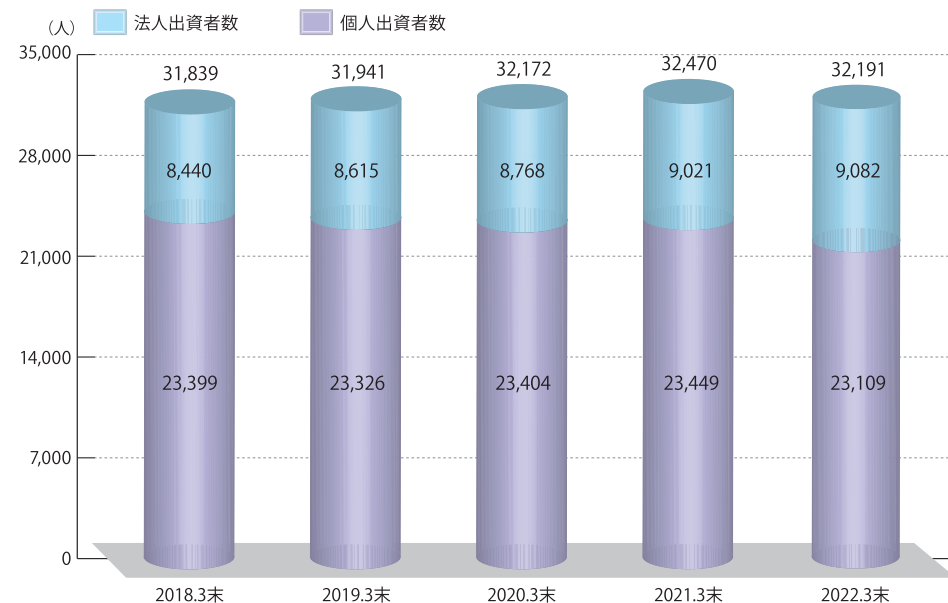
	(億円)				
	2018.3末	2019.3末	2020.3末	2021.3末	2022.3末
リスクアセット	3,500	3,660	3,680	3,689	4,082

自己資本比率は、2022年3月末で10.56%となりました。

〈にっしん〉の自己資本比率は、自己資本の額が18億円増加したものの、貸出金や外国証券の増加などによりリスク・アセット等の合計額が393億円増加し、2021年3月末に比べて0.64ポイント低下しましたが、国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性を十分に堅持していると考えています。

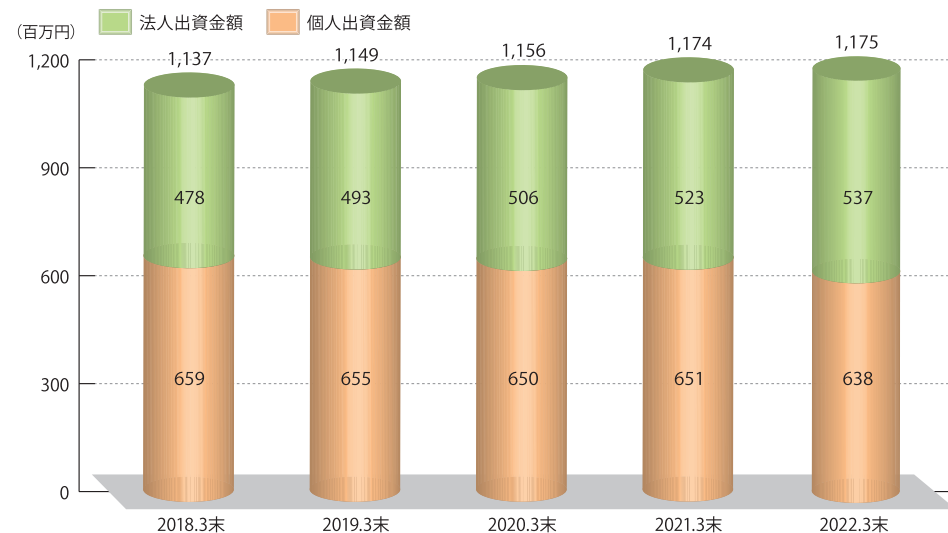
これからも、事業活動を通じて得る収益によって自己資本の充実を図ってまいります。

〈会員数〉



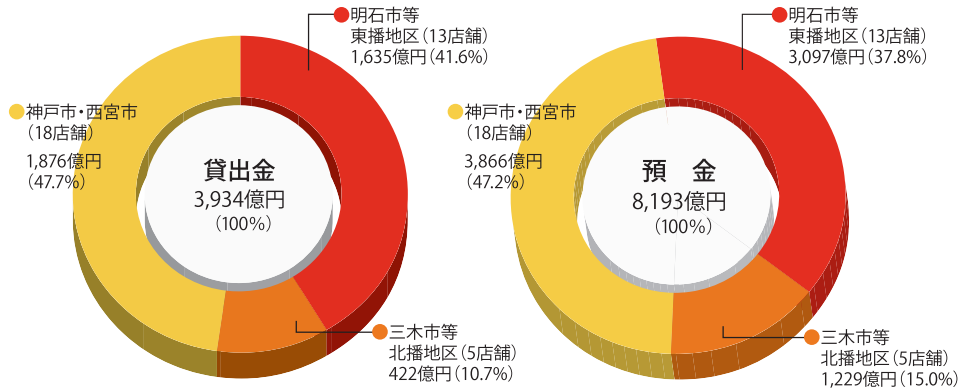
法人出資者数は増加しましたが、個人出資者数は所在不明会員の除名および死亡等による法定脱退が多く、会員数は2021年3月末に比べて279人減少しました。

〈出資金額〉

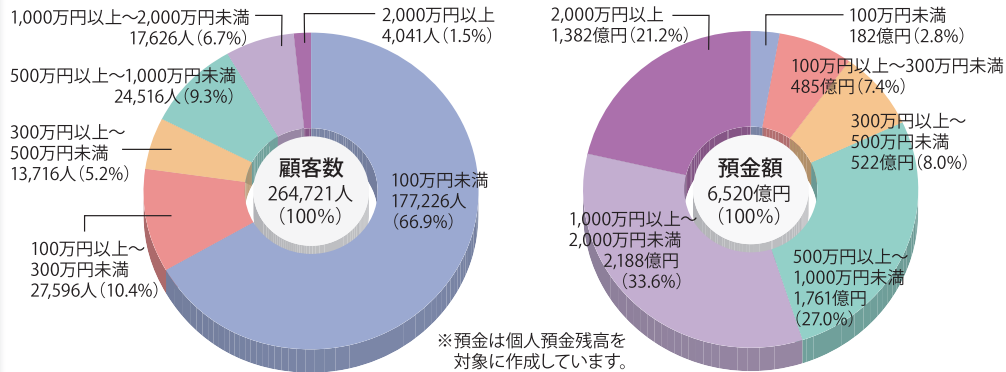


会員数は減少しましたが、新しい会員の皆さまの出資金額が増えたため、出資金額は2021年3月末に比べて横ばいとなりました。

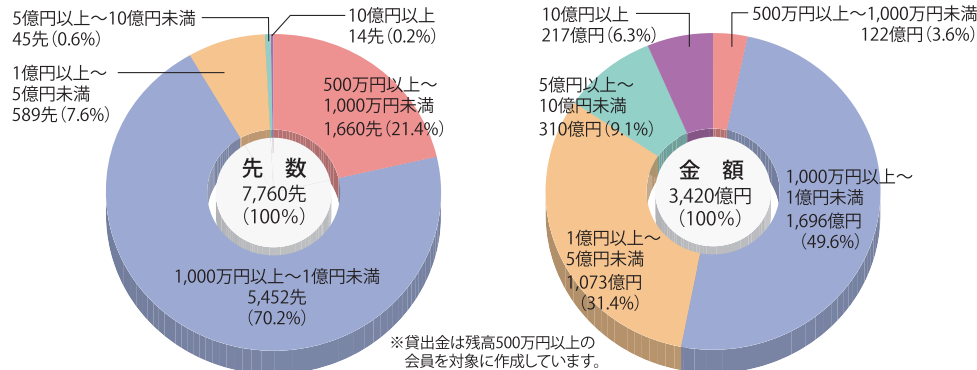
〈貸出金・預金の地域別構成〉 (2022年3月31日現在)



〈預金者のプロフィール〉 〈個人預金の残高階層別にみた顧客数と預金額〉 (2022年3月31日現在)



〈貸出先のプロフィール〉 〈貸出金の残高階層別にみた先数と金額〉 (2022年3月31日現在)



〈信用金庫の中での〈にっしん〉のシェア〉 (2021年9月30日現在)

